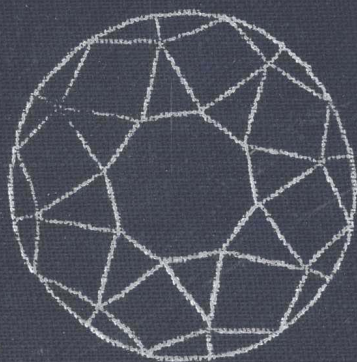




真鍋元之編

增補
大衆文學事典

青蛙房刊

書名 大衆文学事典
編者 真鍋元之
発行者 岡本經一

印刷 三協美術印刷株式会社
製本 有限会社関川製本所
用紙 東北バルブ株式会社
表布 望月株式会社
増訂版 昭和48年10月25日
定価 参千五百円

東京都文京区本郷2-17-9
発行所 有限会社 青蛙房

電話東京(八一三)一五九七
振替東京七二三八四

1591-00011-3800

まえがき

◇本事典は大衆文学の歴史と現状への手引きとして編んだもの。体裁としては小史と作品解題の二部から成り、関係年表と作家列伝を附録とした。

◇本事典にいわゆる「大衆文学」は時代もの（歴史小説）のみを意味し、現代もの（風俗小説、推理小説その他）をふくまない。大衆文学の語をこのように狭く解釈することは、大衆文学の現在の情況からみて妥当ではないかも知れぬが、現代ものについては風俗小説事典、推理小説事典、ユーモア文学事典とうが、他日たれかの手によって編まれることが望ましい。

◇おなじく題材を過去にとった作品にしても森鷗外、幸田露伴、菊池寛、芥川龍之介、谷崎潤一郎とうのものは本事典に収録されていない。これらの諸作家の作品は通常の文学史にくわしいのでこれを割愛し、そのぶんだけ一篇でも多く、純粹の「大衆作品」を収録したいと編者はかんがえた。

◇島崎藤村の「夜明け前」が割愛されながら、江馬修の「山の民」が収録されている。そしてまた題材としては現代ものの「一刀斎は背番号6」が収録されている。そしてまた題材としては村上浪六とうが割愛され、しかも一方では小説以外の剣豪読物、作家の自叙伝とうが収録されている。一見、はなはだしい混乱のようでもある。が、決してそうではない。すくなくとも編者としては、このような選択によるほか道がなかった。すべては大衆文学という、この複雑な文芸形式のもつ特性によることであり、全五章にわたる小史の記述によって、この間の事情を諒察していただけるかと思う。

◇とはいえ、大衆文学の全体的な流れについては、不幸にも今のところまだ定本と称すべきものが世に現われて

いない。従って小史の執筆にあたり、編者はおそらく無数の偏見を露呈しているに違いない。その全史を発生・成立・変質の三期に分けたことにしてからが、すでに問題であらう。他のものもろの欠陥とともに、有識の方々のご斧正を待ちたい。

◇日本の近代文学史は文壇文学史に偏した嫌いを持つ。大衆文学を包含しての、国民史的な文学史の書かれること。および本書がそのための小さな土台石のひとつになってくれること。これが編者のひそかな、しかし心からなる願いである。

◇本事典はむろん、専門研究家のための有効なハンド・ブックでありたい。が、同時にまた大衆文学愛好者一般のための、たのしんで読める内容のものでありたい。このため収録作品の解題にあたっては、筋書きにありがちな無味乾燥性を避け、枚数をいとわず、それぞれに一篇の読物たるべく、記述に工夫をこらしたつもりである。事典といえ「大衆文学」であるからには、読んで面白くなければならない、というのが編者の信念であった。

◇収録作品の配列は、発表の年月順によっている。同年同月のものは短篇を先きに置き、長篇は掲載終了時の順によっている。掲載時不明のもの、および書きおろし作品はその年月次の最後に置いた。

◇収録作品は原則として初出時の掲載誌（紙）に当たったが、検証不能のものは作者、遺族とうを煩わせてその記憶に頼らざるを得なかった。

◇記述の凡例、つぎのとおり。

(4) ①『書出しの一句。その作品の文体を例示するためのもの。なるべく原形をとどめたが、「ある」「思ふ、」

(口)
② 梗概

(二) 掲載誌（紙）のうち、雑誌は全誌名を記したが、新聞紙の場合は「新聞」の二字を省いてある。すなわち『都』とあれば『都新聞』の意。なお朝日新聞と毎日新聞については、たんに『朝日』『毎日』とあれば、その作品が東西両朝日、あるいは大阪毎日と東京日日の双方に掲載されたことを示す。東京、大阪の一紙のみに掲載のものは『大阪朝日』『東京日々』のごとく記してある。

(ハ) おなじく③のうち、別行の文章はその作品への理解を助けるためのもの。ただし事典としての本質じょう主観的な評価を避け、註釈を旨としている。

(ト) 姉妹篇は同じ作者による、同じ材料の作品。類似作品は他の作者が同一、もしくは相似の材料を取り扱ったもの。

(ウ) 作品名の下のアラビア数字はその作品の初出年代を示し、わきに*印のあるものは、その作品が本事典に収録されている。

3

◇目次に年代別と作家別、索引に一般項目と作中人物と、二重手間をかけたのは、検出の便宜を図ったものには
かならない。

◇収録作品の選択年次を昭和三九年上半期に限ったのは、編纂じょうの都合によるものであって、他意はない。
同年下半期以後の作品は、将来増補版の出される機会があれば、順次収録されて行くであろう。

大衆文学小史解題目次

小史・その一 発生期(前) 三

小史・その二 発生期(後) 六

大正二年

大菩薩峠 (中里介山) 三

大正五年

浄瑠璃坂の仇討 (中里介山) 四

大正六年

半七捕物帳 (岡本綺堂) 四

大正七年

仮名屋小梅 (伊原青々園) 四

大正九年

怪建築十二段返し (白井喬二) 四

大正十一年

江戸から東京へ (矢田挿雲) 五

御洒落狂女

(本田美禅) 五

神変呉越草紙

(白井喬二) 五

葛木曾根

(国枝史郎) 五

大正十二年

燃ゆる渦巻 (前田曙山) 五

大正十三年

兵学大講義 (白井喬二) 六

沢村田之助 (矢田挿雲) 六

仇討十種 (直木三十五) 六

三浦老人昔話 (岡本綺堂) 六

夜もすがら検校 (長谷川伸) 六

新撰組 (白井喬二) 六

鞍馬天狗 (大佛次郎) 六

富士に立つ影 (白井喬二) 六

一刀流物語 (本山荻舟) 六

落花の舞 (前田曙山) 六

大正十四年

青蛙堂鬼談 (岡本綺堂) 六

悲願千人斬 (下村悦夫) 六

剣難女難 (吉川英治) 六

坂本竜馬 (白柳秀湖) 六

敵打日月双紙 (三上於菟吉) 六

大関記 (矢田挿雲) 六

修羅八荒 (行友李風) 一〇五

小史・その三 成立期(前) 二〇

昭和元年

敵討鎗諸共 (長谷川伸) 二六

金襴戦 (白井喬二) 二六

唐人船 (平山蘆江) 二六

鴛鴦呪文 (三上於菟吉) 二六

銅銭会事変 (国枝史郎) 二六

西南戦争 (平山蘆江) 二六

正伝清水の次郎長 (村松梢風) 二六

常夏の国 (白柳秀湖) 二六

剣俠受難 (国枝史郎) 二六

花骨牌 (湊 邦三) 二六

忠臣蔵八景 (本山荻舟) 二六

照る日くもる日 (大佛次郎) 二六

鳴門秘帖 (吉川英治) 二六

島原大秘録 (生田蝶介) 二六

快俠七人組 (高桑義生) 二六

昭和二年

藤馬は強い (湊 邦三) 一五

染吉の朱盆 (国枝史郎) 一五

妖日山海伝 (三上於菟吉) 一六

島原美少年録 (木村毅) 一七

赤穂浪士 (大佛次郎) 一八

砂絵呪縛 (土師清二) 一六

新版大岡政談 (林 不忘) 一七

江戸三国志 (吉川英治) 一五

淀君 (三上於菟吉) 一七

昭和三年

青鷲の霊 (土師清二) 一六

右門捕物帖(佐々木味津三) 一八

白蝶秘門 (高桑義生) 一八

ごろつき船 (大佛次郎) 一八

美男狩 (野村胡堂) 一八

新選組始末記 (子母沢寛) 一八

東洲斎写楽 (邦枝完二) 一八

綾衣絵巻 (村松梢風) 一八

劍豪秘話 (流泉小史) 一八

昭和四年 由比根元大殺記 (直木三十五) 一八

旗本退屈男(佐々木味津三) 一九

旋風時代 (田中貢太郎) 一九

風雲天満双紙(佐々木味津三) 二〇

時の敗者 (十一谷義三郎) 二〇

由比正雪 (大佛次郎) 二〇

祖国は何処へ (白井喬二) 二〇

貝殻一平 (吉川英治) 二〇

清河八郎 (三上於菟吉) 二〇

昭和五年

巷説化鳥地獄 (行友李風) 二五

血ろくろ伝奇 (土師清二) 二七

南国太平記 (直木三十五) 二八

新版義士銘々伝(小島政二郎) 三三

踊子行状記 (直木三十五) 三三

奥州流血録 (今 東光) 三六

紅蝙蝠 (長谷川伸) 三八

かんかん虫は唄う (吉川英治) 三九

侍ニッポン (群司次郎正) 三〇

昭和六年

紋三郎の秀 (子母沢寛) 三三

ラグーザお玉 (木村 毅) 三三

馬頭の銭 (長谷川伸) 三三

楠木正成 (直木三十五) 三三

鼠小僧次郎吉 (大佛次郎) 三六

戸並長八郎 (長谷川伸) 三九

歌麿 (邦枝完二) 四二

人間飢饉 (村松梢風) 四二

小笠原沓岐守 (佐々木) 四二

諸国捕物帳 (額田六福) 四二

銭形平次捕物控(野村胡堂) 四二

弥太郎笠 (子母沢寛) 四二

檜山兄弟 (吉川英治) 四三

昭和七年

益満休之助 (直木三十五) 四三

朱唇 (田中貢太郎) 四三

明暗三世相 (直木三十五) 四三

三万両五十三次(野村胡堂) 四三

盤嶽の一生 (白井喬二) 四三

江戸役者 (邦枝完二) 四三

武蔵野から大東京へ (白石実三) 四三

ふらんすお政 (村松梢風) 四六

国定忠治 (子母沢寛) 四六

昭和八年

刺青判官 (長谷川伸) 二五

日本武術神妙記(中里介山) 二五

丹下左膳 (林 不忘) 二五

霧笛 (大佛次郎) 二五

大衆文芸評判記 (三田村鳶魚) 二五

大衆文学十六講(木村 毅) 二五

昭和九年

旅順攻囲軍 (木村 毅) 二五

松のや露八 (吉川英治) 二五

雪之丞変化 (三上於菟吉) 二五

お伝地獄 (邦枝完二) 二五

鶴八鶴次郎 (川口松太郎) 二五

股旅新八景 (長谷川伸) 二五

昭和十年

妖棋伝 (角田喜久雄) 二五

宮本武蔵 (吉川英治) 二五

東海美女伝 (村松梢風) 二五

吉野朝太平記 (鷲尾雨江) 二五

小史・その四 成立期(後) 二五

昭和十一年

天正女合戦(海音寺潮五郎) 三〇
べらめえ十万石(城昌幸) 三三

昭和十二年

荒木又右衛門 (長谷川伸) 三三

逢魔の辻 (大佛次郎) 三三

鬨腰銭 (角田喜久雄) 三三

親鸞 (吉川英治) 三三

ジョン万次郎漂流記 (井伏鱒二) 三三

昭和十三年

勤王浪人笛 (戸川貞雄) 三三

人形佐七捕物文庫(横溝正史) 三三

石田三成 (尾崎士郎) 三三

山の民 (江馬 修) 三三

兜首 (大池唯雄) 三三

風雲将棋谷 (角田喜久雄) 三三

昭和十四年

極楽剣法 (鳴山草平) 三三

若さま侍捕物帖 城 昌幸 三三

上杉太平記 (長谷川伸) 三三

碑 (中山義秀) 三三

篝火 (尾崎士郎) 三三

蛇姫様 (川口松太郎) 三三

昭和十五年
相楽総三とその同志

(長谷川伸) 三五

早稲田精神 (中谷 博) 三五

桃太郎侍 (山手樹一郎) 三五

無法松の一生 (岩下俊作) 三六

本朝画人伝 (村松梢風) 三六

英雄峠 (松前治作) 三六

上総風土記 (村上元三) 三六

維新前夜 (貴司山治) 三六

円太郎馬車 (正岡 容) 三六

朝風街道 (添田さつき) 三六

昭和十六年

シバテン榎文書(田岡典夫) 三七

坂上田村曆 (戸伏太兵) 三七

勝海舟 (子母沢寛) 三七

昭和十七年

阿片戦争 (大佛次郎) 三七

大衆文学論 (伊集院齊) 三八

強情いちご (田岡典夫) 三八

姿三四郎 (富田常雄) 三八

日本婦道記 (山本周五郎) 三八

昭和十八年

- 阿波山嶽党 (中沢聖夫) 三六七
 峯山と長英 (山手樹一郎) 三八八
 庄内土族 (大林 清) 三九〇
 山岡静山 (陸直次郎) 三九三
 昭和十九年 (大佛次郎) 三九五
 乞食大将
 小史・その五 変質期 三九六
- 昭和廿一年 (長谷川伸) 四一五
 狼 柳橋物語 (山本周五郎) 四一六
 昭和廿二年 (山手樹一郎) 四一八
 夢介千両みやげ (山手樹一郎) 四一九
 叛逆 (加藤武雄) 四二〇
 猿飛佐助 (富田常雄) 四二二
 昭和廿三年 (田宮虎彦) 四二三
 ハコネ用水(タカクラテル) 四二五
 霧の中 (田宮虎彦) 四二五
 又四郎行状記(山手樹一郎) 四二七
 昭和廿四年 (田宮虎彦) 四二九
 落城 (陣出達朗) 四三〇
 飛竜無双 (陣出達朗) 四三〇
- 日本捕虜志 (長谷川伸) 四三三
 天狗田楽 (村上元三) 四三三
 権九郎旅日記 (田岡典夫) 四三四
 佐々木小次郎 (村上元三) 四三六
 昭和廿五年 (山岡莊八) 四四〇
 徳川家康 (吉川英治) 四四一
 新・平家物語 (林芙美子) 四四三
 絵本猿飛佐助 (大佛次郎) 四四四
 おぼろ駕 (林芙美子) 四四六
 真説石川五右衛門(檀一雄) 四四六
 昭和廿六年 (村上元三) 四四八
 加賀騒動 (土師清二) 四五一
 あばれ鬨斗 (松本清張) 四五二
 西郷札 (井上 靖) 四五三
 戦国無頼 (富田常雄) 四五五
 弁慶 (長谷川伸) 四五六
 ある市井の徒 (久生十蘭) 四六一
 鈴木主水 (子母沢寛) 四六三
 ずっとび駕 (山本周五郎) 四六四
 よじょう (山本周五郎) 四六四
 桃中軒雲右衛門 (井上友二郎) 四六六
- 次郎長三国志 (村上元三) 四六七
 花の生涯 (舟橋聖一) 四六八
 本阿弥一門 (南条三郎) 四六九
 獄門帖 (沙羅双樹) 四七三
 風と雲と碧 (井上 靖) 四七四
 桃源の鬼 (山岡莊八) 四七七
 喪神 (五味康祐) 四七九
- 昭和廿八年 (川口松太郎) 四八〇
 皇女和の宮 (山本周五郎) 四八二
 栄花物語 (田岡典夫) 四八三
 姫 蒙古来る (海音寺潮五郎) 四八四
 鉄火奉行 (山手樹一郎) 四八六
 絵島生島 (舟橋聖一) 四八七
 風林火山 (井上 靖) 四八九
- 昭和廿九年 (五味康祐) 四九〇
 秘剣 (子母沢寛) 四九二
 お坊主天狗 (山本周五郎) 四九三
 横ノ木は残った (山本周五郎) 四九三
 寄席行燈 (長谷川幸延) 四九六
 平将門 (海音寺潮五郎) 四九八
 織田信長 (山岡莊八) 五〇〇

昭和卅年

忘れ残りの記 (吉川英治) 五三

二十四人の剣客(高木健夫) 五四

毛利元就 (礪山 潤) 五四

一刀斎は背番号6 (五味) 五五

応天門 (村雨退二郎) 五七

青とかげ (野沢 純) 五九

柳生連也斎 (五味康祐) 五〇

青雲の鬼 (山手樹一郎) 五三

昭和卅一年

剣法奥儀 (五味康祐) 五三

お吟さま (今 東光) 五四

柳生武芸帖 (五味康祐) 五五

水戸黄門 (村上元三) 五六

燈台鬼 (南条範夫) 五二

眠狂四郎無頼控 (柴田) 五三

将監さまの細道 (山本) 五五

剣は知っていた (柴田) 五七

二人の武蔵 (五味康祐) 五九

勝島 (穂積 驚) 五一

昭和卅二年 (小島政二郎) 五二

円朝 (子母沢寛) 五四

新吾十番勝負(川口松太郎) 五五

風雪の人 (土師清二) 五七

無宿人別帖 (松本清張) 五九

昭和卅三年 (山手樹一郎) 五〇

土こね記 (山手樹一郎) 五〇

わが恋せし淀君(南条範夫) 六一

赤ひげ診療譚(山本周五郎) 六三

梅雨どき (牧野吉晴) 六四

かげろう絵図 (松本清張) 六六

孤剣は折れず(柴田錬三郎) 六八

甲賀忍法帖 (山田風太郎) 七一

昭和卅四年 (戸川幸夫) 七二

戦国悪党伝 (今 東光) 七四

弓削道鏡 (海音寺潮五郎) 七六

武将列伝 (子母沢寛) 七七

逃げ水 (南条範夫) 七九

残酷物語 (南条範夫) 八〇

二本の銀杏(海音寺潮五郎) 八二

梟の城 (司馬遼太郎) 八三

昭和卅五年 (池田蘭子) 八四

女紋 (池波正太郎) 八六

錯乱 (陣出達朗) 八七

鷹天皇飄々剣 (陣出達朗) 八七

忍びの者 (村山知義) 五九

昭和卅六年 (海音寺潮五郎) 五九

火の山 (子母沢 寛) 五九

二丁目の角の物語(子母沢 寛) 五九

春の眉 (中山義秀) 五九

虚空遍歴 (山本周五郎) 五九

日本敵討ち異相(長谷川伸) 五九

昭和卅七年 (柴田錬三郎) 五九

柴錬立川文庫(柴田錬三郎) 五九

日本剣客物語 (藤島一虎) 六一

悪禪師 (永井路子) 六三

抛銀商人 (南条範夫) 六三

竜馬がゆく (司馬遼太郎) 六五

暁の群像 (南条範夫) 六三

人斬り半次郎(池波正太郎) 六四

孤愁の岸 (杉本苑子) 六六

昭和卅八年 (伊藤桂一) 六八

落日の悲歌 (野村尚吾) 六九

戦雲の座 (野村尚吾) 六九

昭和卅九年 (新田次郎) 六二

梅雨將軍信長 (尾崎秀樹) 六三

大衆文学 (尾崎秀樹) 六三

大衆文学 (尾崎秀樹) 六三

小史・その六変質期(続) 六四

徳川太平記 (柴田錬三郎) 六三

ながい坂 (山本周五郎) 六四

昭和四十年

大衆文学論 (尾崎秀樹) 六四

淵の底 (伊藤桂一) 六四

城 (水上 勉) 六四

昭和四十一年

徳川の夫人たち(吉屋信子) 六五

華岡青洲の妻(有吉佐和子) 六五

昭和四十二年

天皇の世紀 (大佛次郎) 六五

妖怪 (司馬遼太郎) 六五

信長殺し、光秀ではない

(八切止夫) 六六

ゆっくり雨太郎捕物控

(多岐川恭) 六六

阿片戦争 (陳舜臣) 六六

昭和四十三年

額田女王 (井上 靖) 六七

お登勢 (船山 馨) 六七

鬼平犯科帳 (池波正太郎) 六七

鷲の歌 (海音寺潮五郎) 六六

僑人の檻 (早乙女貢) 六六

血みどろ砂絵 (都筑道夫) 六六

昭和四十四年

森の石松が殺された夜

(結城昌治) 六七

博文暗殺 (三好 徹) 六七

昭和四十五年

光と影 (渡辺淳一) 六七

美作ノ国吉井川(棟田 博) 六七

昭和四十六年

春の坂道 (山岡莊八) 六八

雄気堂々 (城山三郎) 六八

街道をゆく (司馬遼太郎) 六八

赦免花は散った(笹沢左保) 六八

作家列伝目次

——あ——		
有吉佐和子	(七〇六)	
『華岡青洲の妻』(昭41)		
——い——		
生田蝶介	(七〇六)	
『島原大秘録』(昭元)		
池波正太郎	(七〇六)	
『錯乱』(昭35)		
『人斬り半次郎』(昭37)		
『鬼平犯科帳』(昭43)		
伊集院 斉	(七〇六)	
『大衆文学論』(昭17)		
伊藤桂一	(七〇七)	
『落日の悲歌』(昭38)		
『淵の底』(昭40)		
井上友一郎	(七〇七)	
『桃中軒雲右衛門』(昭27)		
井上 靖	(七〇七)	
『戦国無頼』(昭26)		
『風と雲と砦』(昭27)		
——え——		
『風林火山』(昭28)		
『額田女王』(昭43)		
伊原青々園	(七〇七)	
『仮名屋小梅』(大7)		
井伏鱒二	(七〇八)	
『ジョン万次郎漂流記』(昭12)		
岩下俊作	(七〇八)	
『無法松の一生』(昭15)		
——お——		
江馬 修	(七〇八)	
『山の民』(昭13)		
大池唯雄	(七〇八)	
『兜首』(昭13)		
大林 清	(七〇八)	
『庄内土族』(昭18)		
岡本綺堂	(七〇八)	
『半七捕物帳』(大6)		
『三浦老人昔話』(大13)		
『青蛙堂鬼談』(大14)		
——か——		
尾崎士郎	(七一〇)	
『石田三成』(昭13)		
『篝火』(昭14)		
尾崎秀樹	(七一〇)	
『大衆文学』(昭39)		
『大衆文学論』(昭40)		
大佛次郎	(七一〇)	
『鞍馬天狗』(大13)		
『照る日くもる日』(昭元)		
『赤穂浪士』(昭2)		
『ごろつき船』(昭3)		
『由比正雪』(昭4)		
『鼠小僧次郎吉』(昭6)		
『霧笛』(昭8)		
『逢魔の辻』(昭12)		
『阿片戦争』(昭17)		
『乞食大将』(昭19)		
『おぼろ駕』(昭25)		
『天皇の世紀』(昭42)		

海音寺潮五郎

(七二)

『天正女合戦』(昭11)

『蒙古来る』(昭28)

『平将門』(昭29)

『武将列伝』(昭34)

『二本の銀杏』(同)

『火の山』(昭36)

『鷲の歌』(昭43)

加藤武雄

(七二)

『叛逆』(昭22)

川口松太郎

(七二)

『鶴八鶴次郎』(昭9)

『蛇姫様』(昭14)

『皇女和の宮』(昭28)

『新吾十番勝負』(昭32)

——き——

貴司山治

(七三)

『維新前夜』(昭15)

木村 毅

(七三)

『島原美少年録』(昭2)

『ラグーザお玉』(昭6)

『大衆文学十六講』(昭8)

『旅順攻囲軍』(昭9)

——く——

陸直次郎

(七三)

『山岡静山』(昭18)

邦枝完二

(七三)

『東洲斎写楽』(昭3)

『歌麿』(昭6)

『江戸役者』(昭7)

『お伝地獄』(昭9)

国枝史郎

(七三)

『蕨葛木曾棧』(大11)

『剣俠受難』(昭元)

『銅銭会事変』(同)

『染吉の朱盆』(昭2)

群司次郎正

(七三)

『侍ニッポン』(昭5)

——こ——

小島政二郎

(七三)

『新版義士銘々伝』(昭5)

『円朝』(昭32)

五味康祐

(七四)

『喪神』(昭27)

『秘剣』(昭29)

『一刀斎は背番号6』(昭30)

『柳生連也斎』(昭30)

『剣法奥儀』(昭31)

『柳生武芸帖』(同)

『二人の武蔵』(同)

今 東光

(七四)

『奥州流血録』(昭5)

『お吟さま』(昭31)

『弓削道鏡』(昭34)

——さ——

早乙女貢

(七四)

『儒人の檻』(昭43)

榊山 潤

(七五)

『毛利元就』(昭30)

佐々木味津三

(七五)

『右門捕物帖』(昭3)

『旗本退屈男』(昭4)

『風雲天満双紙』(同)

『小笠原老岐守』(昭6)

笹沢左保

(七五)

『赦免花は散った』(昭46)

沙羅双樹

(七五)

『獄門帳』(昭27)

——し——

司馬遼太郎

(七二五)

『梟の城』(昭34)

『悲願千人斬』(大14)

(七二七)

『竜馬がゆく』(昭37)

十一谷義三郎

(七二七)

『妖怪』(昭42)

城 昌幸

(七二七)

『街道をゆく』(昭46)

『べらんめえ十萬石』(昭11)

杉本苑子

(七二六)

柴田錬三郎

(七二六)

『眠狂四郎無頼控』(昭31)

白井喬二

(七二七)

『剣は知っていた』(同)

『怪建築十二段返し』(大9)

『朝風街道』(昭15)

(七二六)

『孤剣は折れず』(昭33)

『神変異越草紙』(大11)

——そ——

(七二六)

『柴錬立川文庫』(昭37)

『兵学大講義』(大13)

田岡典夫

(七二〇)

『徳川太平記』(昭39)

『新撰組』(同)

『しばてん榎文書』(昭16)

(七二〇)

子母沢 寛

(七二六)

『新選組始末記』(昭3)

『金欄戦』(昭元)

『強情いちご』(昭17)

(七二〇)

『紋三郎の秀』(昭6)

『祖国は何処へ』(昭4)

『権九郎旅日記』(昭24)

(七二〇)

『弥太郎笠』(同)

『盤獄の一生』(昭7)

高木健夫

(七二〇)

『国定忠治』(昭7)

白石実三

(七二六)

『勝海舟』(昭16)

『武蔵野から大東京へ』(昭7)

タカラテル

(七二〇)

『すっとび駕』(昭27)

白柳秀湖

(七二六)

『お坊主天狗』(昭29)

『坂本竜馬』(大13)

高桑義生

(七二〇)

『からす組』(昭32)

『常夏の国』(昭元)

『快侠七人組』(昭元)

(七二〇)

『逃げ水』(昭34)

城山三郎

(七二六)

『二丁目の角の物語』(昭36)

『雄気堂々』(昭46)

多岐川 恭

(七二〇)

下村悦夫

(七二六)

陣出達朗

(七二六)

『ゆっくり雨太郎捕物控』

(七二〇)

- 田中貢太郎 (昭42) (七三)
『旋風時代』(昭4)
『朱唇』(昭7)
田宮虎彦 (七三)
『霧の中』(昭23)
『落城』(昭24)
檀 一雄 (七三)
『真説石川五右衛門』(昭25)
——ち—— (七三)
陳舜臣 (七三)
『阿片戦争』(昭42)
——つ—— (七三)
都筑道夫 (七三)
『血みどろ砂絵』(昭43)
角田喜久雄 (七三)
『妖棋伝』(昭10)
『獨轡銭』(昭12)
『風雲将棋谷』(昭13)
——と—— (七三)
戸川貞雄 (七三)
『勤王浪人笛』(昭13)
戸川幸夫 (七三)
『戦国悪党伝』(昭34)
戸伏太兵 (七三)
『坂上田村麿』(昭16)
富田常雄 (七三)
『姿三四郎』(昭17)
『猿飛佐助』(昭22)
『弁慶』(昭26)
——な—— (七三)
直木三十五 (七三)
『仇討十種』(大13)
『由比根元大殺記』(昭4)
『南国太平記』(昭5)
『踊子行状記』(同)
『楠木正成』(昭6)
『益満休之助』(昭7)
『明暗三世相』(同)
永井路子 (七三)
『悪禅師』(昭37)
中里介山 (七三)
『大菩薩峠』(大2)
『浄瑠璃坂の仇討』(大5)
『日本武術神妙記』(昭8)
中沢孚夫 (七三)
『阿波山嶽党』(昭18)
中谷 博 (七三)
『早稲田精神』(昭15)
中山義秀 (七三)
『碑』(昭14)
『春の眉』(昭36)
鳴山草平 (七三)
『極楽剣法』(昭14)
南条三郎 (七三)
『本阿弥一門』(昭27)
南条範夫 (七三)
『燈台鬼』(昭31)
『わが恋せし淀君』(昭33)
『残酷物語』(昭34)
『抛銀商人』(昭37)
『暁の群像』(同)
——に—— (七三)
新田次郎 (七三)
『梅雨将軍信長』(昭39)
——ぬ—— (七三)
額田六福 (七三)
『諸国捕物帳』(昭6)
——の—— (七三)